

炭酸ガスの午前午後施用によるイチゴの糖度向上と単収アップ

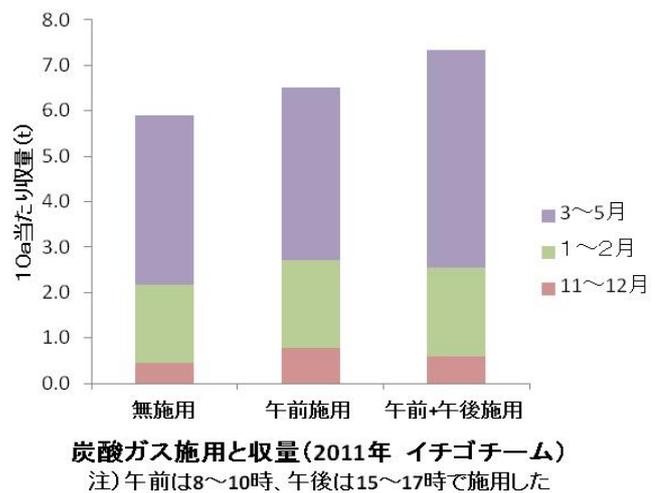
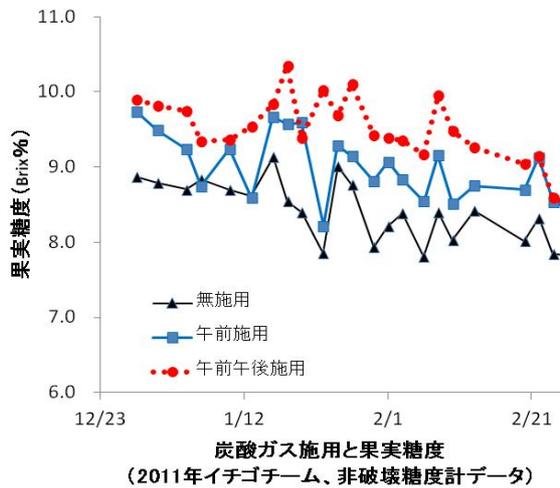
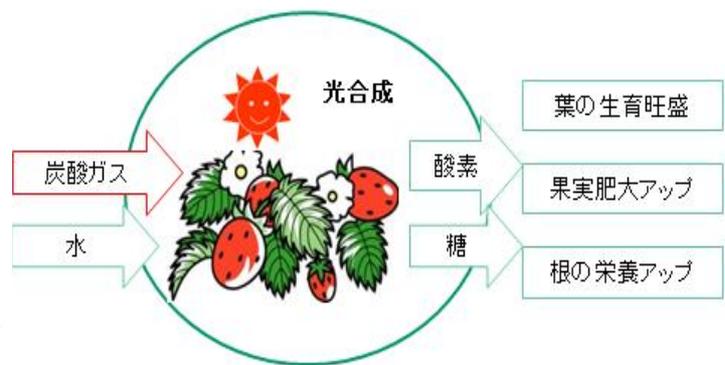
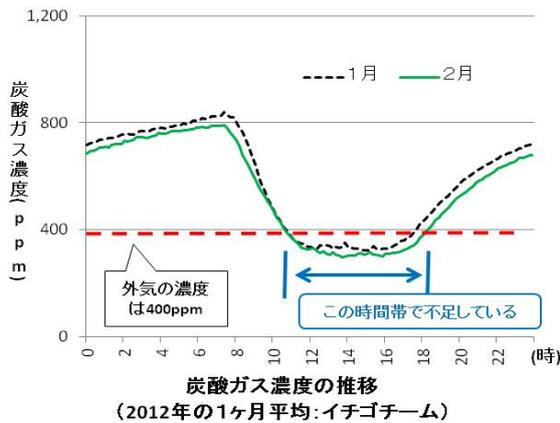
農業研究部

1. 研究の背景

冬のイチゴ栽培では、ハウス内の炭酸ガス（CO₂）濃度が外気より低くなるために、十分な光合成を行うことができず、単収や糖度の低下を招く。そこで、安定的に単収と糖度を向上できる炭酸ガス施用技術の確立が求められている。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

冬のハウス内炭酸ガス濃度は400ppm以下にまで低くなり、炭酸ガスが不足する。そこで午前（8時～10時）と午後（15時～17時）に炭酸ガスを施用することで光合成能が高まる。



3. 期待される効果

- ・果実糖度の向上による市場評価の向上
- ・単収アップによる農家所得の向上、産出額の向上

4. 担当機関連絡先

農業研究部 イチゴチーム
 TEL: 0974-28-2079
 住所: 豊後大野市三重町赤嶺 2328-8